

平成28年度 施策評価シート

基本目標	「すみだ」らしさの息づくまちをつくる	
政策	120	特色ある、多彩な魅力や個性を発信する
施策	121	すみだの魅力を広め、もてなしの心でまちに人を集める
施策の目標	新しい魅力をもった観光地や名産品を楽しむために、これまで以上に多くの人が「すみだ」を訪れて、快適に過ごしています。	

1 基本計画における成果指標

指標名	単位	目標値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
観光協会等のホームページ年間アクセス数	万回	100	61	83	87	60	85
観光ガイドの案内客数	人	4,500	1,638	3,321	3,519	3,391	4,374

2 1の「成果指標」以外に施策の進捗状況を示す指標

指標名	単位	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度

3 目標と現状(実績)についての分析

<p>指標の推移・施策の課題や問題点について記述</p> <p>インターネットにおける観光情報発信については、区の観光情報サイト(ウェルカムすみだ)を閉鎖して、観光協会のホームページに一本化することで、効率化及び利便性の改善が図られ、アクセス数が増加した。今後も利用者が必要な情報をすぐ取得できるよう見直しを随時行い、さらなる利便性の向上を図る。</p> <p>観光ガイドの案内客数については、認知度の向上や顧客リストを活用して積極的にPRを行った結果、客数が大幅に増加した。今後は、認定ガイド制度によるガイドの質的向上及び新規参加者の増加に重点をおきPRを行っていく。</p>

4 今後の施策の運営方針

<p>施策の戦略的方向性（選択肢に を付ける）</p> <p>(1) 優先的に資源投入を図る。</p> <p>(2) 現状維持とする。</p> <p>(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。</p> <p>(4) 資源投入の縮小を図る。</p>
<p>【上記の判断理由】</p> <p>東京スカイツリーによる経済波及効果を区内全体の活性化に結びつける上で、観光施策の推進は、本区における最重要のテーマである。</p>
<p>【今後の具体的な方針】</p> <p>平成27年4月に改定した観光振興プランに基づき、更なる観光プロモーションの充実を図り、また、北斎・江戸文化等の観光資源の再編集、産業と観光の融合、水都すみだの再生及び東京オリンピック・パラリンピックを見据えた海外向けの情報発信の強化や受入体制の構築など積極的に推進していく。</p>

5 部内各課で実施しているこの施策に係る事務事業

(単位：千円)

番号	事務事業名	課名	27年度	事務事業評価 シートの評価結果	部長コメント
			歳出決算額		
1	舟運観光推進事業	観光課	12,856	拡充	「水都すみだの再生」を実現すべく運行環境の整備や楽しむための仕組みづくりを行っていく。
2	観光プロモーション事業	観光課	17,741	拡充	外国人観光客の受入体制の整備、情報発信などに積極的に取り組んでいく。
3	まち歩き観光ガイド事業	観光課	27,700	拡充	認定ガイドの質的向上やコースの拡充を図り、まち歩き観光を推進する。
4	観光案内所等の運営	観光課	29,710	拡充	外国人観光客の増加に対応すべく、多言語化された情報ツールの充実を図る。
5	両国観光まちづくりランドデザイン推進事業	観光課	2,000	拡充	より地域に根差した事業展開を行うべく、関係者と連携を密にし事業を進めていく。
6	外国人観光客受入整備事業	観光課	3,876	拡充	WiFiの貸出し等、外国人向けサービスのPR等を強化し事業を推進していく。
7	地域連携区内回遊促進イベントの実施	観光課	8,959	拡充	地域や地元団体との連携を密にし、更なる区内回遊策を創出する。
8	一般向け観光情報発信事業	観光課	21,926	拡充	今後もフィルムコミッションを支援し認知度の向上と誘客に努めていく。

【評価結果】

- 拡充：効果が高く、拡充による更なる効果拡大も期待できる。
- 現状維持：効果は高いが、拡充しても効果拡大までは期待できない。
- 改善・見直し：手段の見直しで効果を拡大する必要がある。
- 縮小・統合：効果は高くないが、継続する理由がある。
- 休止、廃止：効果は高くなく、継続する客観的な理由に乏しい。

事務事業名	舟運観光推進事業		所管課・係	観光課
施策	121	すみだの魅力を広め、もてなしの心でまちに人を集める	連絡先	03-5608-6500
予算書名称	舟運活用事業		執行実績報告書ページ	146

1 事業の概要

平成25年度の区内船着場の一般開放以降、民間舟運事業者等による観光船の運航が行われているが、観光振興プランにおける観光舟運に係る施策を実現するため、観光を基軸とした川まちづくり事業を実施することで、河川を活かした水上交通の活用による区内回遊性の向上及び水辺の賑わいの創出を実現する。	事業開始年度	平成21年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか		舟運及び観光関係事業者、区内外からの観光客	に対して			
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)		隅田川及び江東内部河川を中心とした舟運事業の促進に向けた検討を行うと共に、Web等による観光舟運の認知度向上及びイベントによる水辺の賑わいづくり	を実施したことで			
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか		舟運を利用して多くの観光客が墨田区を回遊し、水辺が賑わっている	状態にする。			
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	舟運活用イベント参加者数	人	目標値	/	/	/
			実績値	9,100	10,000	11,000
成果指標 (目的に対する指標)	おしなり公園船着場使用回数	回	目標値	/	/	/
			実績値	1,915	1,037	1,085
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
平成26年度と比較すると、舟運活用イベントの参加者数、おしなり公園船着場使用回数ともに増加している。一方、平成25年度おしなり船着場使用回数と比較し約57%に落ちていることから、今後も舟運事業者等と連携し、観光舟運の情報発信や水辺の賑わいの創出を継続していく必要がある。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	産業観光費	項	観光費	目	観光推進費	
27年度歳出予算額	12,856	27年度歳出決算額	12,856	27年度執行率	100.0%	28年度歳出予算額	23,000
27財源内訳(決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 無	/		
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度実績額		28年度予算額		対象			
開始年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
舟運活性化は、スカイツリーを活かした本区の観光振興推進に必要不可欠なものであるため				
(2)事業の有効性	評価結果	上昇	前年度評価	上昇
川に囲まれた本区の特徴を活かすために効果的に実施できていると判断したため				
(3)事業の効率性	評価結果	効率的	前年度評価	効率的
予算の範囲内で概ね効率的に実施できていると判断したため				
(4)現状と課題	舟運活性化実現に必要な施策の実施にあたっては、行政のみならず、舟運事業者やその他の関連事業者と連携していく必要がある。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	拡充する	判定理由	庁内関係各課及び関連事業者と連携して、河川舟運の運航環境を整備し、舟で観光を楽しむことが可能な仕組みづくり構築を図ることで、観光客を広く区内外から呼び込み、観光振興プランに掲げる『水都すみだの再生』を実現していく必要があるため。
今後の方向性 (見直しの視点)	観光客及び区民へのPRによる認知度向上、水辺空間の整備、船着場周辺の賑わいを創出していくにあたり、庁内関係各課及び関連事業者等と連携を図りつつ、施策を推進していく。		
平成27年度区議会の質問状況	時期		
	要旨		

事務事業名	観光プロモーション事業		所管課・係	観光課
施策	121	すみだの魅力を広め、もてなしの心でまちに人を集める	連絡先	03-5608-6500
予算書名称	観光プロモーション事業		執行実績報告書ページ	145

1 事業の概要

本事業は「国際観光都市すみだ」を目指し、平成21年度から墨田区観光協会と連携して実施しているものである。平成22年度からは、国内外での積極的なシティセールスを行うため、東武タワースカイツリー社や東京観光財団、旅行事業者、周辺区とも連携を図り、広域連携による観光プロモーションを実施している。	事業開始年度	平成21年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか	
区内外からの観光客及び観光関係事業者	に対して
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)	
・国内外の観光誘客イベントに参加し、墨田区の観光資源等を紹介して情報発信を行う。 ・各種旅行商談会に出展し、著名な観光資源以外の観光施設・資源・魅力の紹介、PRを行う。 ・近隣区、民間事業者、国、東京都等との広域連携による観光プロモーションを実施する。 ・観光PRポスター及びチラシを作製し、区内外の主要施設、観光案内所、駅等に掲出する。	を実施したことで
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか	
・国内外から墨田区を訪れる観光客の誘客及び訪問者数の増加を図る。 ・墨田区を訪れた観光客が、区内観光資源等を巡る回遊性の向上を図る。	状態にする。

目的を達成するための指標

種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	観光プロモーションの実施(出展)回数	回	目標値	24	24	50
			実績値	15	72	66
成果指標 (目的に対する指標)	修学旅行生の来訪者数	人	目標値	1,300	1,700	2,300
			実績値	1,662	2,061	2,221

目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)

区内各種イベント等における観光プロモーションを中心に、国内外の各種観光誘客イベント、区内外で開催された集客力のある各種イベント等において、観光PRを実施した。イベント以外にも、東武タワースカイツリー社及び墨田区観光協会、台東区、江東区との広域連携による地方都市(札幌市)での観光プロモーションや学校教育における観光施策等の学習事業、教育旅行分科会における修学旅行誘致プロモーションなどを実施した。

プロモーション実施回数及び修学旅行生の来訪者数実績値共に高い数値を示しており、目的達成のために効果的に事業を展開できていると考える。

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	産業観光費	項	観光費	目	観光推進費	
27年度歳出予算額	18,511	27年度歳出決算額	17,741	27年度執行率	95.8%	28年度歳出予算額	19,246
27財源内訳(決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源			
	無	無	無	無			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度実績額		28年度予算額		対象			
開始年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
2020年のオリンピック・パラリンピックに向け、国内外のさらなる観光客の増加が見込まれる。				
(2)事業の有効性	評価結果	上昇	前年度評価	上昇
高い実績値を見ても、その効果の有効性が見い出せる。				
(3)事業の効率性	評価結果	効率的	前年度評価	効率的
様々な団体、機関と連携をし、効率的に進めている。				
(4)現状と課題	プロモーションについては、実施回数だけに捉われることなく、その場その場に必要情報を見極めたいと、広く積極的に活動していく必要がある。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	拡充する	判定理由	「国際観光都市すみだ」として、引き続き観光施策を推し進め、同時に広く墨田区をPRしていく必要がある。そのため、さらなる情報発信の強化、プロモーション活動の推進を行っていく。
今後の方向性 (見直しの視点)	各PR活動の強化にあたっては、近隣区や観光関係機関、民間事業者等と連携した広域的なアプローチで各事業を展開していく。		
平成27年度区議会の質問状況	時期	無	
	要旨	無	

事務事業名	まち歩き観光ガイド事業		所管課・係	観光課
施策	121	すみだの魅力を広め、もてなしの心でまちに人を集める	連絡先	03-5608-6500
予算書名称	まち歩き観光ガイド事業		執行実績報告書ページ	145

1 事業の概要

まち歩きガイドツアーの実施、まち歩きガイドマップ等の作成	事業開始年度	平成20年度
	終了予定年度	なし

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
区内外からの観光客	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
区の観光資源の魅力を十分に伝えるための各種まち歩きガイドツアー	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
多くの区内外からの観光客が、区の魅力ある観光資源を味わい、区内を楽しく回遊している	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	ガイドツアー実施回数	回	目標値	350	400	450
			実績値	588	444	484
成果指標 (目的に対する指標)	ガイドツアー参加者数	人	目標値	3,500	3,600	3,500
			実績値	3,519	3,391	4,394
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
通年実施しているツアーの認知度向上や季節のイベントに合わせたツアーの実施等で参加者を着実に伸ばしている。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	産業観光費	項	観光費	目	観光推進費	
27年度 歳出予算額	27,725	27年度 歳出決算額	27,700	27年度 執行率	99.9%	28年度 歳出 予算額	21,965
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 有	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの		東京の多様性を活かした観光まちづくり推進支援事業費補助金					
27年度 実績額	4,000	28年度 予算額	0	対象	葛飾北斎ゆかりの案内板整備		
開始 年度	26年度	根拠法令	東京の多様性を活かした観光まちづくり推進支援事業費補助金交付要綱				
算定基準				補助率	1/2		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
まち歩き観光は区内回遊促進の重要施策である。				
(2)事業の有効性	評価結果	上昇	前年度評価	上昇
参加者は増加しており、リピーターも多いことから今後さらなる有効性が見込める。				
(3)事業の効率性	評価結果	効率的	前年度評価	効率的
類似事業との統合等は難しく、経費も増大していない。				
(4)現状と課題	事業のPRをさらにしていく必要がある。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	拡充する	判定理由	墨田区観光協会やガイドの会と連携を図りながら、まち歩きの拡充と認定ガイド制度によるガイドの質的向上を目指す。
今後の方向性 (見直しの視点)	スカイツリーや両国に重点を置いた定期ツアーの継続実施や、季節・イベントに合わせた企画ツアーを実施し、訪れた観光客の区内回遊促進を図る。併せてガイドツアーへの参加者の増加を目指すため、認定ガイド制度の継続実施等、ガイドの質的向上を図っていく。		
平成27年度区議会の質問状況	時期	無	
	要旨	無	

事務事業名	観光案内所等の運営		所管課・係	観光課
施策	121	すみだの魅力を広め、もてなしの心でまちに人を集める	連絡先	03-5608-6500
予算書名称	観光案内所等の運営		執行実績報告書ページ	146

1 事業の概要

本区を訪れる観光客に対して観光情報等を提供し、区内観光を便利で快適に楽しんでいただくため、観光案内所等の運営を行う。	事業開始年度	平成2年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
区内外からの観光客	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
観光案内所(区内5ヶ所)や「街あるき案内処」(区内21ヶ所)での、区内の観光マップの配布・販売や、地元ならではの観光情報の提供	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
墨田区を訪れる観光客が観光案内所や「街あるき案内処」に立ち寄り、区内の様々な観光情報を取得し、区内をスムーズに回遊している、また、観光案内所や「街あるき案内処」を運営する事業者がおもてなしの心を持って観光客を迎え入れている	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	街あるき案内処で配布した観光パンフレット数	部	目標値			100,000
			実績値			104,709
成果指標 (目的に対する指標)	観光案内所来所者数 (まち処分は別シートで計上)	人	目標値	47,000	42,000	42,000
			実績値	41,756	39,195	38,684
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
東京スカイツリーの開業により多くの観光客が区内を訪れるため、区内観光回遊性を高めるためには、外国人対応を含めた案内所の機能を高める必要がある。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	産業観光費	項	観光費	目	観光推進費	
27年度歳出予算額	29,710	27年度歳出決算額	29,710	27年度執行率	100.0%	28年度歳出予算額	52,236
27財源内訳(決算額)	国庫支出金 無	都支出金 有	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度実績額		28年度予算額		対象			
開始年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
東京スカイツリー等からの来街者に対し、区内観光の回遊性を高める適切な観光案内が求められているため。				
(2)事業の有効性	評価結果	上昇	前年度評価	上昇
増加する外国人観光客にも対応しており、有効性は上昇している。				
(3)事業の効率性	評価結果	効率的	前年度評価	効率的
観光振興プランを具体化する主体として専門的な知識を要することから、他事業との統合はできない。				
(4)現状と課題	来街者の区内回遊促進、観光情報や利便の提供という意味で、観光案内機能の充実は非常に重要である。運営を委託している観光協会と連携し、多様なまち歩き観光に対応するために増加するニーズにも対応する必要がある。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	拡充する	判定理由	観光案内機能の充実が区内回遊を促進するうえで極めて重要である。区を来訪する観光客が必要とする情報を的確に提供するため、運営を委託している観光協会と連携しながら、区内回遊をさらに促進する仕組みづくりを推進していく。
今後の方向性 (見直しの視点)	外国人旅行者のニーズに対応するため、多言語化された情報発信機能の充実を図っていく。		
平成27年度区議会の質問状況	時期	無	
	要旨	無	

事務事業名	両国観光まちづくりグランドデザイン推進事業		所管課・係	観光課
施策	121	すみだの魅力を広め、もてなしの心でまちに人を集める	連絡先	03-5608-6500
予算書名称	両国観光まちづくりグランドデザイン推進事業		執行実績報告書ページ	145

1 事業の概要

本事業は、平成25年度に、両国地域の魅力の底上げを図って区内回遊性を促すとともに、墨田区のさらなる魅力の向上を図るために策定した「両国観光まちづくりグランドデザイン」の実現に向け、都市計画課と連携して推進している事業である。平成26年度からは、地元町会・地域団体・企業等からなるエリア懇談会、地域連絡会を立ち上げ、官民協働で観光まちづくりに連携して取り組んでいる。	事業開始年度	平成25年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか	
両国地域全体(概ね隅田川、豊川、蔵前橋通り、大横川親水公園に囲まれたA~Dの4エリアに区分)	に対して
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)	
・エリア懇談会、地域連絡会の開催 ・両国の地域資源の磨き上げ、編集と情報発信 ・3つのテーマ、エリアの特性を活かしたまち歩き観光事業の開催 ・観光まち歩きの環境整備、街並みの修景(都市計画課)	を実施したことで
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか	
両国地域の新たな賑わいを創出し、来街者の区内回遊性を高めることにより、墨田区全体の活性化を図るとともに、両国地域における持続的な観光まちづくりを推進する新たな担い手を育成する。	状態にする。

目的を達成するための指標

種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	エリア懇談会・地域連絡会(実施開催数)	回	目標値			14
			実績値		13	14
成果指標 (目的に対する指標)	地域と連携したまち歩きイベント(参加者数)	人	目標値			400
			実績値		330	1,047

目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)

本事業は、定期的に地域住民・団体・企業等によるエリア懇談会を開催し、専門家のアドバイスも受けながら各エリアの具体的な事業を計画し、スケジュールを短期(北斎美術館開館)、中期(東京オリンピック・パラリンピック)、長期(将来構想)に設定して両国の観光まちづくりを推進している。

平成27年度は、前年度に開催した推進イベントの効果及び課題を検証し、各エリアの特色や観光資源を活かした推進イベントを地域住民の企画・運営のもと開催した。昨年度のイベント名称と内容を継続するとともに、新たに各地域が主体となった「ご当地のおもてなし」を実施した結果、参加者数も増加したとともに、各地域の観光まちづくりに取り組む意識の醸成も図られた。

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	産業観光費	項	観光費	目	観光推進費	
27年度歳出予算額	2,000	27年度歳出決算額	2,000	27年度執行率	100.0%	28年度歳出予算額	3,000
27財源内訳(決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源			
	無	無	無	有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度実績額		28年度予算額		対象			
開始年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
<p>本事業は、両国観光まちづくりグランドデザインの実現に向けた各種の取り組みを推進するとともに、両国地域が2020オリンピック東京大会のボクシング競技会場と東京マラソンの新コースとなったことに伴い、国内外からの注目が集まり多くの観光客の来訪が期待できるため、今後、街並みの景観整備や環境整備といったハード面と観光資源の磨き上げと情報発信等の観光視点のソフト面の更なる充実と発展が必要となる。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	上昇	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>地域参加型の取り組みを推進した結果、観光まちづくりの担い手としての意識の醸成が図られているとともに、推進イベントの実施により、両国地域から区内への回遊も促進できているため、非常に有効性の高い事業である。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	低い
<p>事業を展開するエリアが4地域であるため、意見集約や情報共有等の効率が低かったが、連絡調整方法等の改善を図っている。</p>				
(4)現状と課題	<p>今後、国内外から両国地域の注目が集まり多くの観光客の来訪が予想される中で、本事業に対する各地域の参画意識の醸成を図っていく。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	拡充する	判定理由	2020オリンピック・パラリンピック東京大会や東京マラソン等、両国エリアは、今後更なる観光客の増加が見込まれる。地域の方々のご意見を伺いながら、連携を強化して、より一層観光まちづくりを推進していく必要がある。
今後の方向性(見直しの視点)	東京マラソンのコース変更により、今後ますます両国エリアが注目される。地域が主体となった取組みをより一層強化していく。		
平成27年度区議会の質問状況	時期		
	要旨		

事務事業名	外国人観光客受入整備事業		所管課・係	観光課
施策	121	すみだの魅力を広め、もてなしの心でまちに人を集める	連絡先	03-5608-6500
予算書名称	外国人観光客受入整備事業		執行実績報告書ページ	146

1 事業の概要

平26年	区内観光案内所におけるWi-Fiのフリースポットの整備 区内観光案内所におけるWi-Fiルーターの無料貸し出しの開始 ビジットジャパン地方連携事業による海外メディアの招聘 多言語版観光案内冊子の改訂 外国人観光客等の実態及び観光ニーズ調査の実施	事業開始年度	平成26年度
平27年	Wi-Fiルーター無料貸し出しの継続 Wi-Fiパンフレットの改訂	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
観光案内所等					に対して	
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
外国人観光客の受入体制等の整備					を実施したことで	
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
外国人観光客の満足度を高め、多くの外国人に本区を訪れてもらう					状態にする。	
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	海外に向けた情報発信(冊子等配布部数)	冊	目標値	 	8,000	10,000
			実績値	 	8,837	19,307
成果指標 (目的に対する指標)	無料Wi-Fiルーターの利用者数	人	目標値	 	 	360
			実績値	 	196	573
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
海外に向けた情報発信では、台湾国際観光博覧会(TTE)への出展やタイムバウンド誘致商談会・現地旅行会社セールスへの参加など現地でのプロモーション活動のほか、本区で作成している多言語観光冊子の海外発送、外国人旅行者向け冊子特集ページの掲載・配布および抜き刷り印刷・製本を実施。 Wi-Fiルーターの無料貸し出し実績は大幅な伸びを見せており、今後はPR活動も重視して事業を進めていくため、さらなる伸びが期待できる。海外に向けたプロモーション事業は、対海外だけではなく、国内においても外国人観光客を意識したプロモーション活動を実施していく。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	産業観光費	項	観光費	目	観光推進費	
27年度 歳出予算額	3,937	27年度 歳出決算額	3,876	27年度 執行率	98.5%	28年度 歳出 予算額	3,930
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有	 		
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
国際観光都市すみだを目指すうえで、外国人観光客の受入体制を強化することは必須である。				
(2)事業の有効性	評価結果	上昇	前年度評価	どちらかといえば有効
実績値が向上していることに鑑み、有効性は高いと判断する。				
(3)事業の効率性	評価結果	効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
外国人旅行者向け冊子特集ページの掲載については海外での配布のコストがかからず、海外事務所への発送についても低コストで済むため、効率的に事業が実施できている。				
(4)現状と課題	Wi-Fiルータ無料貸し出しのサービスについて、認知度向上のためのPRを進めること			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	拡充する	判定理由	近年の外国人観光客の増加、2020年のオリンピック・パラリンピックを視野に入れ、さらなるインバウンド施策の推進が必要である。外国人観光客の満足度を高め多くの外国人に本区を訪れてもらうため、効果的な事業を検討し進めていく。
今後の方向性 (見直しの視点)	平成27年度のWi-Fiルータ貸出実績は平成26年度から大幅な伸びを見せている。さらに知名度を上げ、より多くの外国人観光客に本サービスを活用してもらうため、今後はPR事業にも力を入れていく。海外プロモーションも引き続き積極的に実施していき、観光客誘致を進め、あわせて外国人観光客の受入体制を整備していく。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期	無	
	要旨	無	

事務事業名	地域連携区内回遊促進イベントの実施		所管課・係	観光課
施策	121	すみだの魅力を広め、もてなしの心でまちに人を集める	連絡先	03-5608-6500
予算書名称	地域連携区内回遊促進イベントの実施		執行実績報告書ページ	145

1 事業の概要

地域団体や区内企業等と連携し、行政・地域・民間が一体的になって、地域を盛り上げるイベントを実施することにより、東京スカイツリーを訪れる観光客等の区内回遊を促すとともに、観光客を受け入れる地域のおもてなしの心を醸成する。	事業開始年度	平成25年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
区内外からの観光客	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
地域や区内企業等が一体となって地域活性化を図るイベント	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
観光客等の区内回遊促進と区のブランドイメージが向上している	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	イベントの来場者数	人	目標値	130,000	190,000	220,000
			実績値	139,800	190,000	225,000
成果指標 (目的に対する指標)	スタンプラリーに参加した区内回遊者数	人	目標値	7,000	9,000	13,000
			実績値	7,470	9,300	13,100
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
ご当地キャラクターフェスティバル及びスカイツリータウン内広場を活用したイベントは4年目を迎え、徐々に知名度向上が図られ、集客数も向上している。今後は、更なる地域活性化、観光客の回遊性向上を実現するため、なお一層、地域や地元団体との連携を緊密にし、イベントの催行を進めていく必要がある。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	産業観光費	項	観光費	目	観光推進費	
27年度歳出予算額	8,960	27年度歳出決算額	8,959	27年度執行率	100.0%	28年度歳出予算額	19,153
27財源内訳(決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 有			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度実績額		28年度予算額		対象			
開始年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
観光客の回遊促進による地域経済の発展に寄与しているため。				
(2)事業の有効性	評価結果	上昇	前年度評価	上昇
回を追うごとに、地域等の連携事業が密に行われており、イベントの認知度も向上している。				
(3)事業の効率性	評価結果	効率的	前年度評価	効率的
区内企業や地元商店街等との役割分担が適切に行われている。				
(4)現状と課題	特定の地域のみならず、区内の広範な地域を対象とした回遊性の向上施策の実施が今後の課題である。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	拡充する	判定理由	イベントを開催する毎に、地域や地元団体との連携が密に図れるようになっており、認知度の向上も図られている。
今後の方向性 (見直しの視点)	地域や地元団体との連携を密に図り、恒常的に区内回遊が促進される仕組みを整備していく。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期	無	
	要旨	無	

事務事業名	一般向け観光情報発信事業		所管課・係	観光課
施策	121	すみだの魅力を広め、もてなしの心でまちに人を集める	連絡先	03-5608-6500
予算書名称	一般向け観光情報発信事業		執行実績報告書ページ	145

1 事業の概要

区内外からの観光客の誘致と利便性の向上を図るため、区内観光に役立つ情報発信を行う。	事業開始年度	平成21年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか											
区内外からの観光客	に対して										
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)											
フィルムコミッション事業や観光情報サイトを通して情報を発信すること。	を実施したことで										
区の情報がマスメディアに取り上げられることにより、多くの観光客や区民が観光のための回遊に訪れる。	状態にする。										
目的を達成するための指標											
種類	指標名(指標の説明)										
活動指標 (手段に対する指標)	フィルムコミッション電話受付件数	単位	本	年度	目標値	H25年度	600	H26年度	600	H27年度	600
					実績値	689	558	631			
成果指標 (目的に対する指標)	観光情報サイトアクセス数	単位	件	年度	目標値	H25年度	800,000	H26年度	800,000	H27年度	800,000
					実績値	878,387	599,828	847,547			
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)											
フィルムコミッションについては、公園・スポーツ施設に続き需要が多くなっている学校の空き教室なども使用できるように関係各課と検討を行う必要がある。スポーツ施設については関係各課と調整を行い、撮影手順を明確にすることができた。											

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	産業観光費	項	観光費	目	観光推進費	
27年度 歳出予算額	22,034	27年度 歳出決算額	21,926	27年度 執行率	99.5%	28年度 歳出 予算額	20,780
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 無	都支出金 無	その他 無	一般財源 無			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
ドラマ・CM等の撮影を支援することで、マスメディアを通じて墨田区をPRし、区内への誘客を図る必要がある。				
(2)事業の有効性	評価結果	上昇	前年度評価	上昇
国際観光都市すみだを目指すうえで、フィルムコミッション事業や観光情報サイトを通してマスメディアに情報を提供することは有効な手段である。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
フィルムコミッション事業の二次利用を観光情報サイトで活用することにより、更なるイメージアップに繋がるとともに、誘客にも効率的である。				
(4)現状と課題	柔軟な受け入れ態勢を確立し、PR効果を高める必要がある。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	拡充する	判定理由	東京スカイツリーの開業により注目度が上がっている今こそ、マスメディアを活用して積極的にPRすることで、更なる誘客に繋がると考える。
今後の方向性 (見直しの視点)	今後も積極的にフィルムコミッションによる支援を実施し、事業者等への知名度向上を図ることによりロケ支援数を増加させ、観光情報サイト等で多くの二次利用を活用して誘客につなげていく。		
平成27年度区議会の質問状況	時期	無	
	要旨	無	